

第7部門B 郵便史・日本

機械波消し 1987～1993 すだに のぶひろ 須谷 伸宏 (大阪府) ①

本作品は、1987(昭和62)年に登場した、料金別納郵便の料金として郵便局に一括で渡される切手に抹消された消印である「機械波消し」の変遷を、終焉となった、1993(平成5)年までの流れを時系列に展開する。

構成としては；第1章：「機械波消しの始まり」(1987～1988)・全盛期

第2章：「平成時代の使用状況、印色：黒色時期(1989～1991)」

第3章：「平成時代の使用状況、印色：錆桔梗色時期(1991～1993)、衰退期とした。特に第1章は多くの最初期使用例を示すことができた。

機械波消し 1987～1993

展示目的
本作品は、1987昭和62年に登場した、料金別納郵便の料金として郵便局に一括で渡される切手に抹消された消印である「機械波消し」の変遷を纏ったものである。

背景
料金別納郵便の切手に押印された専用の消印を「波消し」と呼んでいる。最初の波消しは、1963昭和35年に登場し、1977昭和52年には、見本入りとなり、1985昭和60年には、挿しが登場した。そして1987昭和62年に、正式名称は、「電動式大口収納手消印機」(メーカーは(株)モリコー)でいわゆる「機械波消し」が登場した。

展示範囲及び構成
本作品は、「機械波消し」が登場した1987昭和62年から終焉となった、1993平成5年までの流れを時系列に展開する。

展示プラン
第1章：「機械波消し」のはじまり(1987～1988)、全盛期
1-1 第1回配備(芝居、開発初期型機) …… No.2
見本：東京府使用例(1987昭和62年7月3日)を展示した。
1-2 第2回配備(東京都内13局、改良型機) …… No.3～10
見本：東京都(東京都内13局、改良型機) 以下最初期は10月1日以前と定義する
見本：東京都、日本橋、牛久、千石等の最初期使用例を展示した。 …… No.11～14
第2章：平成時代の使用状況、印色：黒色時期(1989～1991) …… No.15～16
第3章：平成時代の使用状況、印色：錆桔梗色時期(1991～1993)、衰退期 …… No.15～16



波消しの変遷

波消しはこう



波消しの変遷

波消しはこう

主な参考文献
① HYPER Philatelist Number 2、「郵政の消印の再検証「機械波消し」、須谷 伸宏、1999年7月25日
② 郵趣 1993年11月号No.630、「見本と目付が入った波消し」、橋 一、(財)日本郵趣協会、1993年
③ 郵趣 1994年1月号No.638、協会と会員・読者のページ、(財)日本郵趣協会、1994年

1

第1章：「機械波消し」のはじまり(1987～1988)

1-1 第1回配備(芝居、開発初期型機)

第1回(開発初期型機)として、芝居に配備された。配備時期は1987(昭和62)年7月頃と推定されている。これまでの最初期は、1987(昭和62)年7月3日であったが、5日更新して7月3日の使用例が確認された。芝居は機械波消しの中でも多く存在しており、現在残る機械波消しの80%が、芝居となっている。芝居は使用開始から終焉となる、1993(平成5)年までよく使われた。



芝居初期使用例(開発初期型機)の最初期使用例、1987(昭和62)年7月3日



芝居初期使用例、1987(昭和62)年7月3日

2

第1章：「機械波消し」のはじまり(1987～1988)

1-2 第2回配備(東京都内13局、改良型機)



小石川局

1987(昭和62)年10月6日

使用日一覧 小石川局		
年	月	日
1987	10	6, 9, 22
	12	23



中野局

62.9.24

使用日一覧 中野局		
年	月	日
1987	9	24
	11	9
	12	5

中野局最初期使用例
1987(昭和62)年9月24日

中野局は、前印機の前入機機が1987(昭和62)年9月30日であるため、9月24日が最期と思われる。

7

第3章：平成時代の使用状況、印色：錆桔梗色時期(1991～1993)

1991(平成3)年10月になり「機械波消し」において印色が黒色→錆桔梗色に変更された。この機種の流通の通り、芝居でしか使用が確認されていない。そして1993(平成5)年12月頃に、「機械波消し」は使用を終了している。



芝居(印色：錆桔梗色)
錆桔梗色、後期使用

芝居(印色：錆桔梗色)の最初期使用例、1991(平成3)年12月29日

※1994(平成6)年以降の、「機械波消し」使用は現在のところ確認されていない。

16